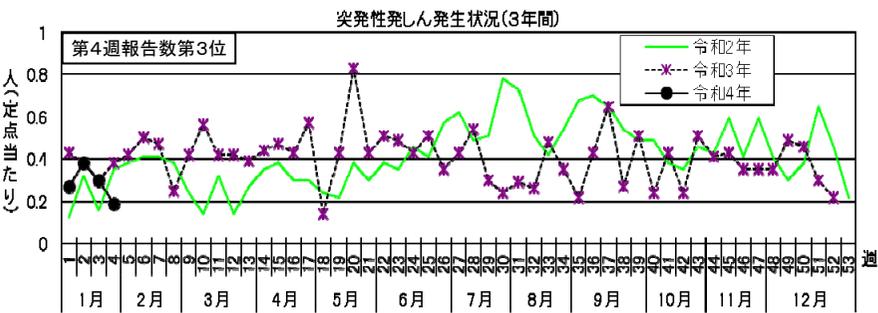
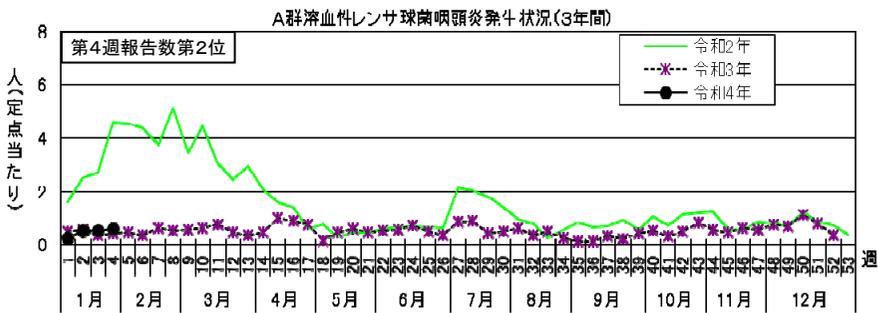
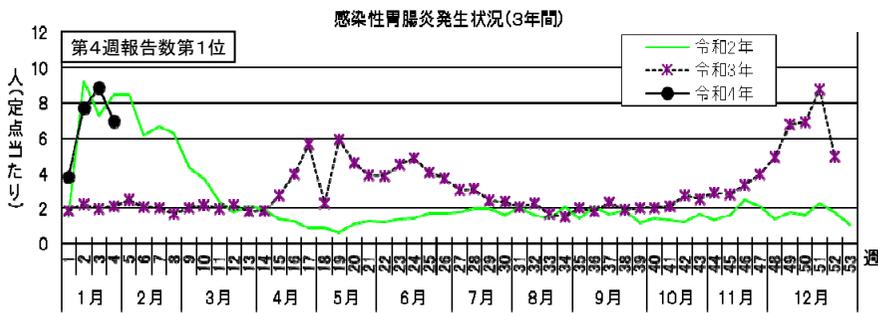


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年1月24日（月）～令和4年1月30日（日）〔令和4年第4週〕の感染症発生状況

第4週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 突発性発しんでした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.95人と前週（8.89人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.59人と前週（0.54人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
 突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.19人と前週（0.30人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。



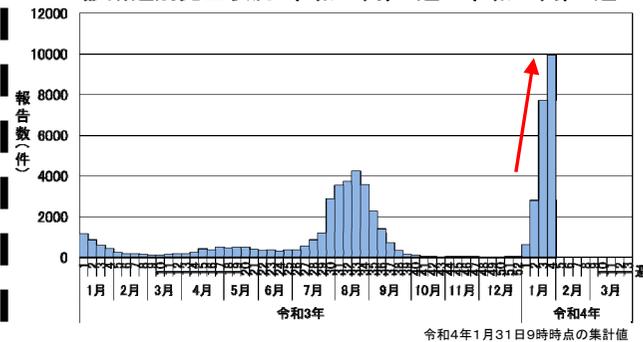
新型コロナウイルス感染症～2週連続過去最多を更新～

川崎市では、令和4年第4週（1月24日～1月30日）の新型コロナウイルス感染症の報告数が9924件となり、前週の7710件を大きく上回って、2週連続で過去最多を更新しました。

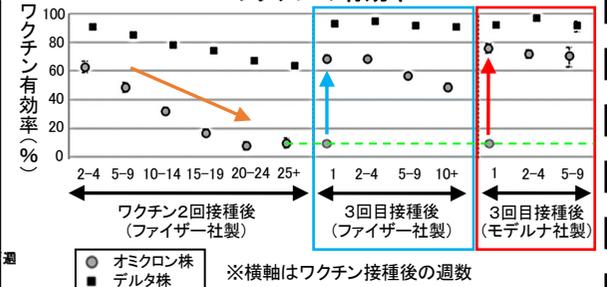
現在の流行の主流であるオミクロン株に対しては、令和3年8月頃に主流であったデルタ株と比較して、新型コロナワクチンの有効率が大幅に低下するといわれています。さらに、有効率は時間とともに低下し、2回目接種後の約4か月後には20%以下となることから、3回目の接種が推奨されています。

3回目の接種は、ワクチンの種類にかかわらず、オミクロン株に対しても有効であることが複数のデータで示されています。異なる種類のワクチンでも十分な有効性が認められていますので、早めに3回目の接種を御検討ください。

川崎市における新型コロナウイルス感染症 診断週別発生状況-令和3年第1週～令和4年第4週-



デルタ株、オミクロン株による発症に対する ワクチン接種回数、種類及び接種後の期間別の ワクチンの有効率



UK Health Security Agency Investigation : SARS-CoV-2 variants of concern and variants under investigation in England 31 December 2021 より一部改変